

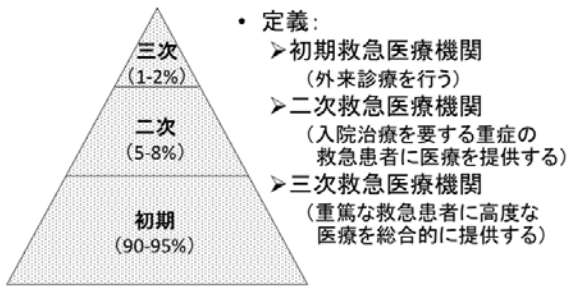


産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

救急現場 からのメッセージ

産業医だよりは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。今月は、中頭病院 救急科医長 仲村 尚司 先生に「救急現場からのメッセージ」についてご講演いただきました。仲村先生はコロナ禍において介護施設の医療的支援の中心としてご活躍され、今期から沖縄県医師会の理事にいられています。以下にご講演内容を要約し紹介します。

日本の救急医療は、初期・二次・三次救急医療体制として医療機関が役割を分けて対応するのが一般的になっています。



()内は患者数の割合 (救急患者に関する定義はない)

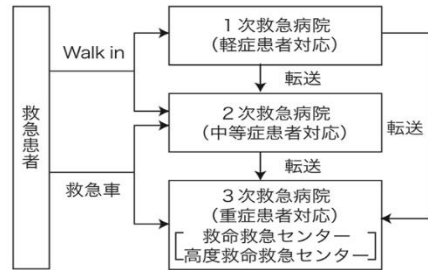
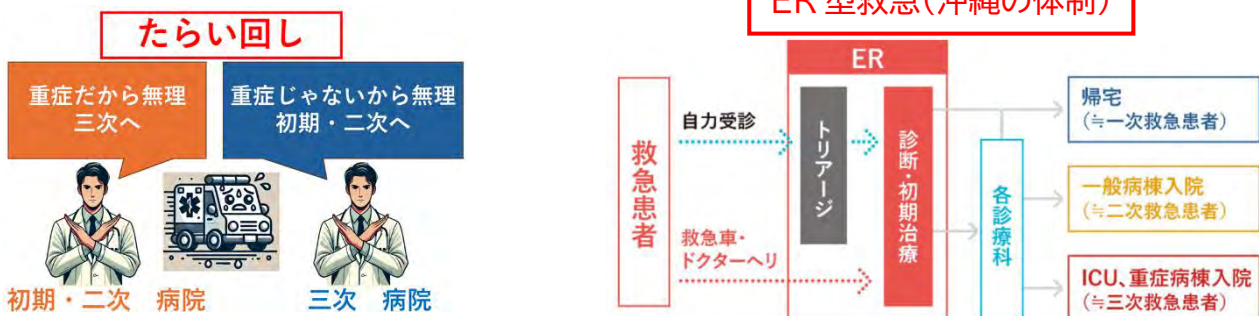


図1 従来の救急医療システム

出所：日本救急医学会ER検討特別委員会 (2010)。

理想的に思えるシステムですが、実は救急車が「たらい回し」になりやすいことが問題になっています。

沖縄は戦後日本復帰前からハワイ大学の指導のもと沖縄県立中部病院が沖縄の医療の中心を担ってきました。このアメリカ式救急体制においては一旦救急外来に自力あるいは救急車で受診し、その後重症度に応じて担当する医師を決定、但しその医療機関で対応が難しい場合は受け入れが可能な他の病院に紹介するというシステムをとってきました。これを「ER型救急」と一般的に呼びます

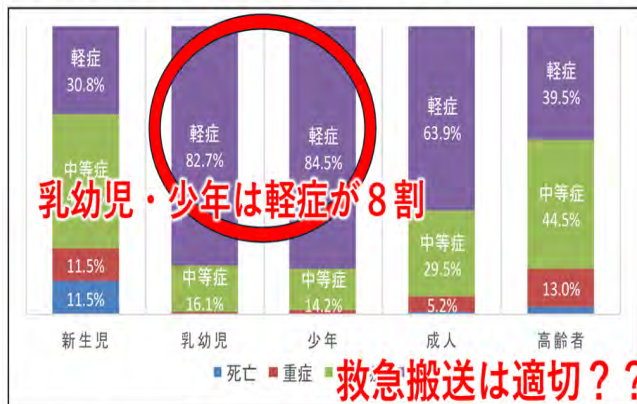
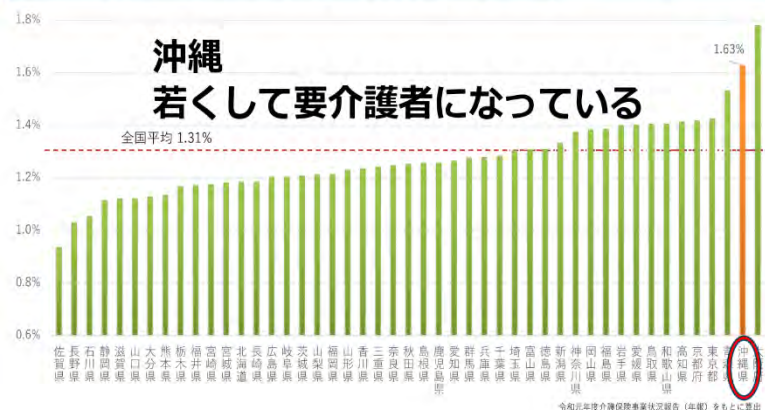


そのため、沖縄の医療は他の地域と違って「たらい回し」が少ない地域として一定の評価を受けてきました。しかし、一方で「いつでも救急に行けば何とかなるさ」という意識が県民に根付きました。このため、**時間外診療を受ける患者さんが全国一多い**という状況になっているのが沖縄の現状です。とりあえず救急、総丸投げになりがちになっています。沖縄のみならず全国的なことです。高齢者が救急で搬送される件数が年々増加しています。コロナ禍でも問題になりましたが、特に沖縄は、今後高齢化が他の県よりも加速度的に進んでしまうという将来推計が指摘されており、救急外来への負担が今後さらに増加することが懸念されています。

もう一つの問題は、**沖縄は働き盛り世代で大きな病気になり、介護が必要になる方が多いと推測されています。**救急が必要になるような重度疾患にならないように日頃から健康管理することが重要です。また、ER 型救急は受診する方々にとっては安心なシステムなのですが、**乳幼児から少年期で救急受診する方々の 80%以上は軽症**という事実があります。

65歳～74歳における要介護3～5認定率 (2019年度)

図7 急病のうち年齢別、重症度別の割合(R3年実績)



私たち医療を提供する側にも環境に変化が起こっています。医師の働き方改革です。これにより救急外来に従事できる医師数が減っており、救急外来の待ち時間増加、小児の救急外来の受け入れ制限が起こっています。救急受診が様々な理由で飛躍的に伸びている事と医者の働き方改革等で対応が難しくなっており医療が逼迫していることが今の医療現場の現状です。

また、沖縄県における救急搬送の内訳より、重症・死亡をきたす病気は心臓、脳血管疾患が多く、死亡の最多は心疾患です。この心臓、脳血管疾患を適切に対応することが救命では大切です。特に心臓が止まってしまった場合の勝負は病院に来る前だと言われています。予防すること、早期に119番すること、早期にAEDを使うこと この3つのリングが合わさってはじめて救急の現場で命が助かります。

県民の皆様にもお願いしたいのは、救急隊が到着するまでにAEDの使用率を向上させることです。

沖縄県民の救急蘇生法の受講率は全国 42 位と低く、心肺停止患者の除細動実施率は 17 位となっています。

救命の連鎖



勝負は病院外で決まる



team ASUKA 救命サポーター

今すぐアプリをダウンロード

近くの AED 設置場所が分かる 救命処置が学べる

脳卒中

頭蓋骨 脳出血 脳梗塞 血栓

顔がゆがんでいる Face
腕が上がらない Arm
腕が固定できない
くも膜下出血
くも膜上手く話せない Speech
Time

症状が出た時間を記録してすぐに救急者を呼ぶ

チェックポイント

小児の救急外来受診者の多くが軽症であることの問題も指摘しました。これを少しでも減らしたいという目的で、沖縄県は # 8000 という「こども医療でんわ相談」事業を行っています。今年度中には、大人版 # 7119 という事業も検討中です。沖縄県は在宅医療を受けている人々の数が他の都道府県と比較しても少ないことが指摘されています。在宅医療を受ける人が増えると、自宅で体調不良になった時にすぐに救急車ではなく、訪問看護に相談することが可能な方々が増えることにつながります。

まとめとして、貴重な医療資源である、病院の救急外来を守り、まさに救急医療が必要な県民が適切に治療を受けられるようにするためには、医療界のみならず県民皆で取り組む必要があります。一緒にできることから取り組んでいきましょう！



第 241 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『免疫抑制剤服用中の予防接種について
～腎・リウマチ性疾患編～』

日時：令和6年8月14日（水）午後7時～配信

YouTube 配信



その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **健康相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師
公認心理士 田名彩子



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)

メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。

お気軽にご利用下さい！